

佐見地区まちづくり懇談会(新庁舎整備事業)

【質疑応答記録】

日 時：令和4年11月15日(水)

19:30~21:10

場 所：佐見ふれあいセンター
大研修室

参加者：22名

凡例	■：質問・意見	➡：白川町	⇨：設計事務所
----	---------	-------	---------

<質疑応答>

- 敷地への出入口について、河岐トンネルから来た人はどのように入ってくるのか。
⇨県道からの右折進入で運用をスタートしていきたい。運用開始して様子を見て、問題があれば運用方法を検討していきたい。県道側の進入路は、交差点から一番遠い場所に配置しており、信号待ち等の影響をできるだけ避けた場所に配置した。
- 新庁舎の運営経費は、現庁舎と比べてどのくらい違うのか。
⇨現庁舎：年間500万円、新庁舎：最大370万円。
➡太陽光パネルによる発電で、年間50万円の電気代を賄える予定。
- 現庁舎のレストルームのような職員が休憩できるスペースはあるのか。またもう少し執務スペースについて説明してほしい。
⇨1階に休憩スペースや2階のテラススペース、サーバー室前のカウンタースペースが食事スペースや休憩スペースとなる。執務スペースは、将来的なフリーアドレス化も対応できるように計画している。職員と協議を重ねて職員が働きやすい庁舎となるように検討していきたい。
- 町民に開放するスペースの町民会館との住み分けは、どう考えているか。
⇨町民会館でできないことを新庁舎でやるというよりは、いかに連携し稼働率を高めていくか、部屋の大きさもいろいろあるので、使いやすい部屋をそれぞれ選択してもらい、使ってもらいたいと考えている。
- 停電時の非常発電機はどのくらい使えるのか。
⇨72時間分(3日間)の燃料を地下タンクに貯蔵する計画。燃料が補給できれば、燃料がなくならない限り使用可能。
- 新庁舎の耐用年数はどのくらいか。
⇨国土交通省の指針では、65年が目標数値。65年で使えなくなるのではなく、メンテナンスをしっかりと行けば、65年以上は対応できる。
- 建設費はどのくらいか。
➡基本計画時では、総事業費18億円。基本設計時では、建築費、外構工事費で15億円程度となり、物価高騰の影響もあり少し増えている。設計費や木材調達などのその他経費を含めた総事業費は20億円程度と見込んでいる。増額分は森林環境譲与税などで賄える見込。